



TOHO UNIVERSITY OHASHI MEDICAL CENTER

FLAP! ナビ 連動企画

「何を大切に看護するか」 自ら考え、もう一歩前へ

東邦大学医療センター
大橋病院

「東邦大学医療センター大橋病院」は、高度急性期病院として地域医療の中核を担っています。疾患も生活環境も異なる患者さんの思いに寄り添い、支える看護を提供すべく、幅広い知識・技術をもった看護師を育成しています。新人教育では実践能力が高く、自ら行動できる看護師に成長できるようにさまざまな研修を実施しています。研修に携わっている看護部、先輩看護師の取り組み、研修を体験した看護師の成長を紹介します。



Click



WEB「FLAP! ナビ」では…

ウェブ版「FLAP! ナビ」では、ここでは紹介しきれなかった看護部の特徴や、新人の成長をバックアップする多彩な教育体制についてもピックアップ。ぜひチェックしてみてください。



自ら考え、行動できる 看護師へと導く教育体制

「生きる力を引き出し、支える看護」を大切にしている看護部では、患者さんやご家族の思いと生き方を理解し、実践に活かせる看護師の育成に力を入れています。

混合病棟だから幅広い看護を学べる

専門分野と一部フリーアドレス化した病棟構成を基本とし、さまざまな患者さんを受け入れられる混合病棟になっています。毎日の業務で経験豊富な先輩と共に多彩な疾患にふれ、幅広い視点に立った看護を学んでいます。

看護実践能力の高い ジェネラリストナースを育成

患者さんを生活者として捉え支援するため、特定分野に限らない全般的な看護実践能力と幅広い視野をもったジェネラリストナースを育成しています。1年目以降も継続教育を行い、様々な教育・研修を企画してキャリア支援体制を整えています。

自律して学び続けられる 看護師としての姿勢を育む

患者さんの思いに応えるには看護の意味や必要性を考え抜く力と、自ら行動することが求められます。そのため、常に問いかけ自ら考える教育と、自己の看護実践を語り、その出来事を意味づける会を持ち、成長の場として大切にしています。



プリセプター 新人指導責任者
看護師

看護の根拠を言語化して伝え、 自分でも考える事が成長に繋がる

入職後初めての新人研修であるシャドウイング研修は、新人にとって多くの利点があると感じています。同じ先輩が研修を担当するため指導内容にぶれがないこと、プリセプターとプリセプターの関係性が深まるためスムーズに指導できることなどがその理由です。毎回指導役が変わってしまうと内容の重複や伝え漏れが起きることもありますが、同じプリセプターが指導すれば防ぐことができます。また、プリセプター・プリセプティの関係性が深まると、新人の個性に応じた指導ができるようになり、精神的なサポートもしやすくなります。昨年、私がプリセプターを務めた時も、新人の表情や行動を見れば「ここに手こずっているな」「ちょっと気分が落ち込んでいるかな」とわかるようになり、早めのフォローができました。

指導者のプリセプターは、3病院でのキャリア支援センター主催の「新人を育



プリセプティ
2年目看護師

先輩が培った知識・技術を 間近で見て、吸収する

入職後、病棟配属となった直後からシャドウイング研修が開始されます。まだ、何も分らない状態からのスタートでしたが、先輩と一緒に行動し、先輩の看護実践を見ることで、看護技術はもちろんです、何故看護介入するのか、患者さんとのコミュニケーションの取り方など、多くのことを学び取ることができました。

たとえば術後の患者さんをケアする際に、『観察項目のみを観察するのではなく、全身状態を踏まえたうえで観察している』『この患者さんは血液データや病態から皮膚トラブルが発生しやすいから、特に肌の状態に気をつけて観察している』など、先輩の視点や動きを見ることで、考えに触れることで、自分では

気づけなかったポイントを知ることができました。点滴ひとつにしても、手技の知識があっても学生時代はほとんど実践経験がありません。経験豊富な先輩の手技やコツを教えてもらいながら、一緒に実践することで学びを深めることができました。

研修期間中は毎日同じプリセプターの先輩が担当してくれるため、「今日は昨日の続きから始めよう」というように一度に全て教えるのではなく、長い目でみてもらって学べる点もよかったです。ずっと一緒にいるため私のことも理解してもらい、苦手な点を手厚く教えてくれたり、やりやすい方法を提案してもらったことも助けられました。

教育担当者 interview

1人の先輩と常に行動を共にする シャドウイング研修でぐんぐん成長

当院では入職後に4週間のシャドウイング研修を行います。1週目はプリセプターの先輩の働く様子を間近で見学、2～3週目は先輩に見守られながら清拭など基礎的な経験を積み、4週目はプリセプターの受け持ち患者さんを一緒に担当します。同研修の期間は、新人とプリセプターは同じ勤務シフトで働き、常に一人の先輩が新人を見守っている点が大きな特徴です。この研修を通して新人は慣れない環境の中でも、質問

や相談がしやすい信頼できる先輩を持つことができます。また、徐々に不安を払拭し、職場環境に慣れることができます。経験豊富な先輩と常に行動し、実施すべきことや看護介入のコツを自然と吸収することができるので、主体的に物事を考え、行動する力が養われていると感じています。



教育担当 副看護部長

Hospital Data

東邦大学医療センター大橋病院

〒153-8515
東京都目黒区大橋2-22-36
TEL 03-3468-1251(代)
【担当/看護管理室】

URL <https://nurse.toho-u.ac.jp/>



Hospital Information

『優しい心、親切な心のこもった医療の実践に基づいて、人々の生命を尊重し、人間としての尊厳と権利を遵守する。』ことを理念に掲げ、患者さん、ご家族の意思を尊重し、医療と生活の場をつなげる看護を実践しています。

研修に参加するなど、指導の方法や内容を学びます。シャドウイング研修で行動を共にする際は「何を大切に看護しているのか」「なぜこうしたのか」など看護の根拠や技術を言語化して説明することを大切にしています。たとえば「おはようございますの挨拶からも、声のトーンや顔色が患者さんの様子を知る手掛かりになるよ」と伝えました。また、患者さんの対応がうまくできなかった場合には、正解を伝えるのではなく、「なぜ患者さんはケアを受け入れてくれなかったのかな?」と問いかけ、本人に考えてもらっています。問いかけることで看護する意味や求められることを考え、行動する習慣ができます。

新人教育は私たち指導者にとっても学びの場となります。経験を重ねて普段は何気なく行っている看護も、新人に伝えるために言語化することで改めてその意義、根拠を認識できます。新人と一緒に、私たちも成長させてもらっています。

当院では病棟の先輩たちも声をかけてくれてみんなで教えてくれるので、新人の時から働きやすい環境です。加えて、シャドウイング研修でプリセプターの先輩という心強い存在もできました。最初に一緒にいる時間が長かったぶん、特別に心を許せているので、すぐに頼りにしてしまいます。新人の時に、壁にぶつかった私に優しく励ましてくれただけでなく、2年目になった今も私を気にかけて声をかけてくれます。信頼できる先輩との関係を築くことができた掛けがえのない時間でした。